

令和4年度職能委員合同交流会を開催しました

1. 日時・方法：令和4年12月15日（木）18:00～19:30 Zoomによるオンライン開催
2. 参加者：40名（保健師12名・助産師4名・看護師24名）
3. 開催主旨：近年、虐待、引きこもり、8050問題など、背景や原因が複雑かつ多重に絡み合った健康課題が増えています。看護職は、地域で暮らす人々の健康課題解決に必要なケア体制を創り、支援する役割がありますが、一職種、一機関の支援だけでは解決が困難な事例が多い現状となっています。医療と保健、福祉が協働し、それぞれの職種や所属機関の強みを生かした支援を行いつつ、住民も巻き込んだ地域での支援体制を構築し、個々の健康課題に応じた解決をしていくことが求められていることから、今年度の職能委員合同交流会では、下記テーマを取り上げ、お二人の講師からご講話をいただきましたのでご報告します。
4. テーマ：「複雑かつ多重課題事例の支援に向けた事例検討会の進め方
～個別課題解決から地域課題解決へつなげるために～」
5. 実施内容：

【情報提供1】「複雑かつ多重課題事例の支援に向けた事例検討会の進め方」 講師 公益社団法人岩手県看護協会 前副会長 奥寺三枝子氏	
要旨	日本看護協会が出版した「複雑かつ多重課題事例を支援する事例検討会の手引き」（以下、「手引き」と記載）に基づき、複数の課題を抱えた者への多機関・多職種連携による支援に有効な事例検討会を行う意義や運営方法、支援を要する対象者の情報収集、アセスメントの視点、課題整理や目標の明確化のポイント等に関して詳細にご講話いただきました。 ケースの事例検討に留まらず、個別事例からの一般化、施策化・事業化への思考が大切であること、複雑かつ多重課題事例の検討を積み重ねることにより、地域課題の解決策の検討がなされ、その結果、保健福祉計画や地域づくり活動への反映が期待できることなどについて学ぶことができました。
【情報提供2】「令和3年度事例検討会の学びを日々の活動に生かして」 講師 軽米町健康福祉課 保健師 中里 早苗氏	
要旨	昨年度、当協会が軽米町にてモデル的に取り組んだ「複雑かつ多重課題事例を支援する事例検討会」の実施概要やその会での学びについてご報告いただきました。 事例検討のテーマは、「育児能力、生活能力が低いと思われる夫婦への支援」とし、検討時の会場レイアウト、参集者の顔ぶれ、スーパーバイザーやスタッフの役割、検討の進行手順、情報のアセスメントや課題整理のためのホワイトボードへの板書状況、課題や支援の方向性検討の際の視点などについて、具体的にご報告いただきました。オンライン実施のため機器の準備に苦慮したこと、アセスメントした情報を基に課題整理を行う段階が難しかったが、スーパーバイザーの助言で理解が広がったことが紹介されました。また、事例検討会を終えての学びとして、「手引き」に基づく様式を活用したことでケース理解がしやすく、課題や関係者の役割が明確になったことが話されたほか、地域に必要なサービス資源が明確になった、これまで直接連携していなかった機関と共通理解が図られたなどのメリットについてもご報告いただき、非常に参考となりました。
参加者 ご意見 感想等	<ul style="list-style-type: none">・事例検討の進め方や町での活動状況が分かりやすくイメージできました。・多職種が参集し多方向から情報を得て話し合うことで、客観的に捉えられました。・ホワイトボードへ板書することにより、お互いに共有すべき情報を視覚的に捉えることができました。職場でも活かしていきたいと思えます。・保健師目線、多職種目線で検討し気付きがあり、ケース理解がより深まりました。地域において多職種で支えることが大事だと感じました。・個別課題、地域課題、短期目標、長期目標について学ぶことができました。
主催者 から	今回は、夕方からのZoomでの開催にもかかわらず、多数の支部役員・委員の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。 今後は、各支部において事例検討会の活用に取り組んでいただき、複雑かつ多重課題を抱える対象者の地域支援体制の充実にお役立ていただきますようお願いいたします。

【交流会当日の様子（写真）】

◆奥寺三枝子氏からの情報提供

事例検討会の意義、進め方等について
ご講話いただきました



◆中里早苗氏からの情報提供

軽米町での事例検討会の実践報告について
ご講話いただきました

